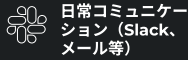


AIブレイン オペレーティングマップ

記憶は素材、検索で知性に。

分散した社内情報

あらゆる場所からの情報



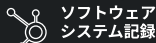
日常コミュニケーション (Slack、メール等)

意思決定、更新、質問、回答



ミーティング議事録

顧客通話、デモ、異議、インサイト



ソフトウェアシステム記録

財務、顧客、業務データ



SOP

プロセス文書、プレイブック、チェックリスト



日次メモ

個人のデジタルメモ



経営判断

トピック、ポリシー等



経営修正

戦略の見直し、ポリシー調整、修正



日次ログ

何が起きたか、何が変わったか、次は何か

情報の断絶は、情報の喪失

→ コンテキストフロー 生データの投入 ...→ トラストフロー 検証済み+使用可能 ...→ パーミッションフロー 使用できるもの ...→ フィードバックフロー 修正のループバック

1

キャプチャ



- 作業を記録
- 通話を文字起こし
- 意思決定をログに
- 修正を保存
- 業務フロー出力を収集
- ソースメタデータを保存

素材がシステムに入る

2

検索



- 今必要なコンテキスト
- タスクに応じたメモリ
- 必要なものだけを取得
- コンテキストの肥大化を回避
- 人間の再説明を減らす

エージェントはすべてを必要としない。必要なのは重要な6つのみ

3

ソースの正確性



- どのソースが優先されるか
- ライブCRM vs 古いSOP
- 通話記録 vs Slackの修正
- 公開可能 vs 内部専用
- 過去の情報 vs 最新の情報

ソースの優先度がなければ、エージェントは堂々と誤情報を出力するようになる

4

権限管理



- 誰が何を閲覧可能か
- 業務フローごとのアクセス権
- クライアント情報へのアクセスを制限
- HR・財務情報はアクセス制限
- 公開可能なコンテンツの管理
- 業務フローに応じた情報アクセス

壁のない巨大な頭脳は危険

5

フィードバックループ



- 修正内容がルールとして定着
- 音声ルール更新
- ソースルール更新
- CRMリスクルール更新
- ルーティングルール更新
- 繰り返しのミスがなくなる

すべての修正がシステムを強化

6

実行



- エージェントが最初から賢く動く
- レポートの生成が加速
- コンテンツに根拠が付く
- パイプラインレビューでリスク可視化
- 通話から得た知見がプレイブックに
- オペレーターがゼロから始めずに済む

コンテキストと証明があれば、より少ないサイクルで仕事が完了



運用ルール

1

キャプチャはストレージ。インテリジェンスではない

2

検索は大きなメモリに勝る

3

ソースの正確性が誤情報の断定的な出力を防ぐ

4

権限管理がシステムを安全に保つ

5

すべての修正をルール化する

6

エージェントを使うたびに賢くなる

業務フロー監査

自動化前に確認すべき6つの問い

1

この業務フローはどの情報源が必要か？

2

競合した場合、どの情報源が優先されるか？

3

常に必要な情報は何か？

4

決して使うべきでない情報は何か？

5

何度も繰り返されている修正は何か？

6

個別の修正をどのようにルール化するか？

蓄積される業務インテリジェンス



迅速な意思決定

推測ではなく、情報をもとに判断



スムーズな引き継ぎ

説明が減り、伝達がスムーズになる



エージェント出力の向上

精度が高く、根拠のある出力



コンテキスト切替の削減

途切れなく、素早く進む



修正の繰り返しを削減

一度の修正で、システム全体に反映



会社に知識が蓄積され続ける

組織の記憶が唯一無二の強みになる